

中国型フィンテックの発展モデルについて

李立栄(京都学園大学)

中国では近年インターネット企業による金融サービスの提供が活発化しており、様々な金融イノベーション(フィンテック)が生まれている。具体的には、インターネットの決済プラットフォームを活用した第三者決済や、投資ファンド・保険などの金融商品販売である。第三者決済は電子商取引の安全を図るために生まれたサービスであり、その登録ユーザー数は5.2億人以上に達する。さらに、インターネットで資金の貸し手と借り手をマッチングさせるP2Pレンディングなどのオンライン・オルタナティブ・ファイナンスも、個人や中小企業をはじめとする強い資金調達ニーズとより有利な運用先を求める投資家ニーズを背景として急速に市場が拡大し、中国だけでアジア太平洋地域全体の同市場の約99%を占めている。

このような中国型のフィンテックの展開は、欧米など先進国と異なる部分が多い。欧米では厳格な金融規制の枠組みのなかで、既存金融サービスとの併用を前提に利用者の利便性向上を狙った付加価値型のサービスが多いのに対して、中国では、伝統的な金融機関から独立した決済プラットフォームの上で、既存の金融サービスを補完・代替するような新たなサービスが提供されている。実際、中国のフィンテックの発展は、従来利用できなかった人々にも金融サービスを普及させる一定の役割を果たしており、金融包摂の手段としても注目されている。中国のフィンテックが先進国と異なる独自の発展を遂げている背景には、①インターネット人口の爆発的増加と電子商取引の普及、②イノベーション促進を視野に入れた当局の規制対応、③規制の裁定機会の存在、④既存金融システムの効率性の低さ、を指摘できる。

中国は今後、後発者の利益(Leap Frog Effect)を活かしてリテール金融サービスの水準を飛躍的に高める可能性がある。最近人工知能が多くの産業において今後のイノベーションの重要な鍵として大きな期待を集めているが、それはビッグデータの活用と表裏一体の関係にある。中国はこの点においても有利な環境にある。すでに、中国ではビッグデータを活用したオンライン・コンシューマー・ファイナンスやネット小口融資も急成長している。

本報告では、中国におけるフィンテックの発展について欧米と対比しながら概観するとともに、その類型と先進事例を紹介し金融システムの発展段階との関連性について考察したい。さらに、中国におけるフィンテックの発展の意義と今後の課題を明らかにしたい。